

金日成主席と自主性のための闘争

ヨーロッパ・チュチェ思想研究会理事
パリ大学名誉教授
リーヌ・シニョディウム

金日成主席は、1948年、朝鮮民主主義人民共和国の創建者であり、初の指導者でした。

チュチェ思想を創始し、自主の時代を切り開いた金日成主席は、逝去する前まで朝鮮を導きました。

1998年最高人民会議は、金日成主席を「朝鮮民主主義人民共和国の永遠なる主席」に戴くと公布しました。

恐るべき世界的な伝染病と息詰まるような制裁のため悪化していく複雑な国際環境の中でわれわれは2022年4月15日金日成主席の生誕110周年を慶祝するようになります。

複雑かつ波乱に富み、横暴な世界の状況の中でも金正恩総書記は金日成主席と金正日総書記の後を受け継いで、ひたすら人民を守り、朝鮮民主主義人民共和国の自主権と自主性を保証するために苦心しています。

金日成主席と金正日総書記の遺訓に忠実である金正恩総書記は、チュチェ思想を変わりなく継承し発展させています。

傑出した戦略家である金正恩総書記は、朝鮮民主主義人民共和国を社会主義偉業の完遂に向かって進む、近代的かつ強力な国家に建設する自らの意志を表明しています。

金正恩総書記の周りに固く団結した朝鮮労働党と朝鮮民主主義人民共和国の武力、人民は民族の自主のために力強く闘っています。

チュチェ思想は、あらゆる外部勢力の干渉と支配を排除します。

チュチェ思想は、人間は自己の運命の主人であり、自然と社会の主人であることを明らかにしています。

金日成主席は、自主化偉業において勝利を収めました。

金日成主席は、自衛力を備えた朝鮮式社会主義制度を建て、国の自主性と自主権を守りました。

金日成主席は、多数の国を訪問して国家及び党の首班と政治、社会、科学、新聞界をはじめとする各社会界の人物と会って建設的な対話を交わしました。

金日成主席が政治、軍事、経済を指導しながら示した道は、国防委員会委員長である金正日総書記と朝鮮民主主義人民共和国の国務委員長である金正恩総書記

によって受け継がれました。

金日成主席（1912－1994）は1945年に国の解放を成し遂げました。

朝鮮戦争の時期（1950－1953）、金日成主席は国の実情に合う戦法を創造して祖国解放戦争の勝利をもたらしました。

戦後には重工業を優先的に発展させながら軽工業と農業を同時に発展させ、自主的に進むという経済建設の路線を打ち出しました。

金日成主席は170余か国の国家首班と党の首班、著名な人士から16万5900余点の贈り物をもらいました。

金日成主席は1945年8月20日軍事・政治幹部におこなった演説「解放された祖国での党、国家および武力建設について」で朝鮮人民自身の力で富強で自主的な独立国家を建てるべき必要性について厳かに示しました。

金日成主席は党と国家、軍隊建設偉業を立派に実現しました。

去る70余年間、朝鮮民主主義人民共和国の自主権と尊厳、榮譽を守り完璧化されていく軍事的潜在力は、国家防衛に関する金日成主席の自主的路線によるものです。

金日成主席が堅持した国防における自衛の原則は、先軍政治方式を打ち出した国防委員会委員長である金正日総書記が堅持していた原則でもあります。

朝鮮民主主義人民共和国の勝利は、金正恩総書記の賢明な指導によって続けられています。

1994年7月、金日成主席が逝去した後、すぐ朝鮮民主主義人民共和国は前例のない試練にぶつかるようになりました。

この試練は自然災害とともに朝鮮を抹殺しようと策動した一部の国によってさらに悪化されました。

しかし、朝鮮民主主義人民共和国は頑固に耐え切り、これに屈しませんでした。

試練の中でも朝鮮民主主義人民共和国は無料治療制、自立的な経済発展、軍事的潜在力の強化のための活動で大きな成果を収めています。

金正恩総書記は、朝鮮人民の生活と福祉を向上させるための活動に集中しています。

朝鮮民主主義人民共和国は今年、共和国創立73周年を迎えました。

去る73年間は、朝鮮民主主義人民共和国の党と国家、軍隊の創建者である金日成主席の業績を余すところなく見せています。

金日成主席の指導のもとに1945年10月に創立され、金正日総書記が強化、発展させ、今日は金正恩総書記の指導を受けている朝鮮労働党は、朝鮮人民のすべての勝利の組織者、導き手としての役割を果たしています。

朝鮮人民にとって金日成主席は慈愛深い父親、永遠なる領袖です。